



世の中の動きと統計

皆さんは日本銀行と聞いて、何を思い浮かべられますか? 「お札」は身近なところにあるでしょう(いや、仕事帰りについて一杯飲んで、残ってない?……残念)。あるいは、金融政策。新聞やテレビで、時に総裁記者会見のニュースを目にしたことがあるのでは。景気の動向によって、日銀が金利を上げ下げすると、学校で習った記憶があるかもしれません。

一方で、「統計」というキーワード

日銀の統計をご覧あれ

日本銀行調査統計局企画役 松浦春洋

1で日銀を思い浮かべる方は、まずいいでしょう。もし連想されたら、恐らく「短観」や「企業物価指数」などの調査で、日本銀行の担当者と接点を持たれた方ではありませんか(日ごろご協力いただき、誠にありがとうございます)。

今回のシリーズで統計を取り上げるのは、実は日本銀行の品ぞろえがとて豊富ということを知らせたいからです。例えば、一万社を超える企業にお答えいただいた「短観」。これを見ると、日本全体の企業経営者の景気の

見方がどう変わっているのか、繊維業界の中小企業の設備投資はどう計画されているのかが、分かりやすい数字になって表れます。次に「物価」。日本銀行では企業と企業の間で取引されるモノやサービスの値段を調査し、その変動を追跡しています。モノであれば一三三八品目に上る毎月の価格の変化を即座に公表しています。この統計を出発点に、例えば原油価格が上がったときに、その影響がどこに及ぶかといった分析を誰でも始めることができます。もちろん日本「銀行」という

見方がどう変わっているのか、繊維業界の中小企業の設備投資は

くらいですから、お金がどこからどこにいくら流れたかといった金融事情も統計に束ねて、皆さまに届けています。

何かお気付きになられたでしょうか? そう、「統計」は何やら近づき難くて専門家以外には無関係と思われるかもしれませんが、経済を映し出す身近な「鏡」なのです。日本銀行では、金融分野をはじめ、物価、企業活動に至るまで、バラエティーに富んだ統計を用意しています。定期的に作成している統計を数えると、約八〇種類に上ります。

統計をより身近に、より分かりやすく!

日本銀行と統計の関わりは古く、創業時の明治時代にさかのぼります。しかも、内部で用いるだけでなく、その成果を「統計書」として昔から編さんし広く配布してきました(写真1)。装丁を変えながらも刊行を続けていますので、図書館や学校で手に取られてめくられた経験があるかもしれません(写真2)。

近年はインターネットが普及してきましてので、日本銀行もホームページに統計を一括して掲載することになりました。かれこれ一〇年以上も前から取り組んでいます。

二年前からは、簡単にデータを検索できるサービス「時系列統計



写真1 / 明治時代に、実際に刊行された『日本銀行統計年報』(1890年刊)。このころ日本で電話創業。近代国家の夜明けを感じる。

データ検索サイト」を始めました。これは、自分が探したいデータを「キーワード」や「メニューの選択」で選び、必要なデータのみをダウンロードするものです。日本銀行が作成する統計データのほぼすべてが収録されており、手に入れた統計を過去にさかのぼって入手



写真2 / 明治、大正、昭和、平成と続く統計書。右端は、現在発行している統計書の最新刊。120年の歴史を経て現代風にスマートに？

できます(次頁で、「時系列統計データ検索サイト」を紹介しています [http://www.stat-search.boj.or.jp/index.html])。

さらに、今年からは、「グラフをすぐ描ける」サービスも始めました。折れ線グラフでも、棒グラフでも、数回クリックするだけで画面上に描けます! 「グラフ」と書かれたボタンを押すだけで、グラフを即座に表示することも、あるいは、自分好みのグラフに多少加工することも可能です。「グラフ」というのは、視覚に訴えて事態の本質をつかみやすいものです。ぜひいろいろ試され新たな「発見」により、経済をチェックされてはいかがでしょう。

統計あつまみその 公平な政策判断

日本銀行は、統計の作成のみならず、こうした統計データの利用サービスの向上にも力を注いでいます。お話ししてきた「検索サイト」や「グラフ描画の機能」も、ともすれば無味乾燥な数字の羅列に見えてしまう統計を、より身

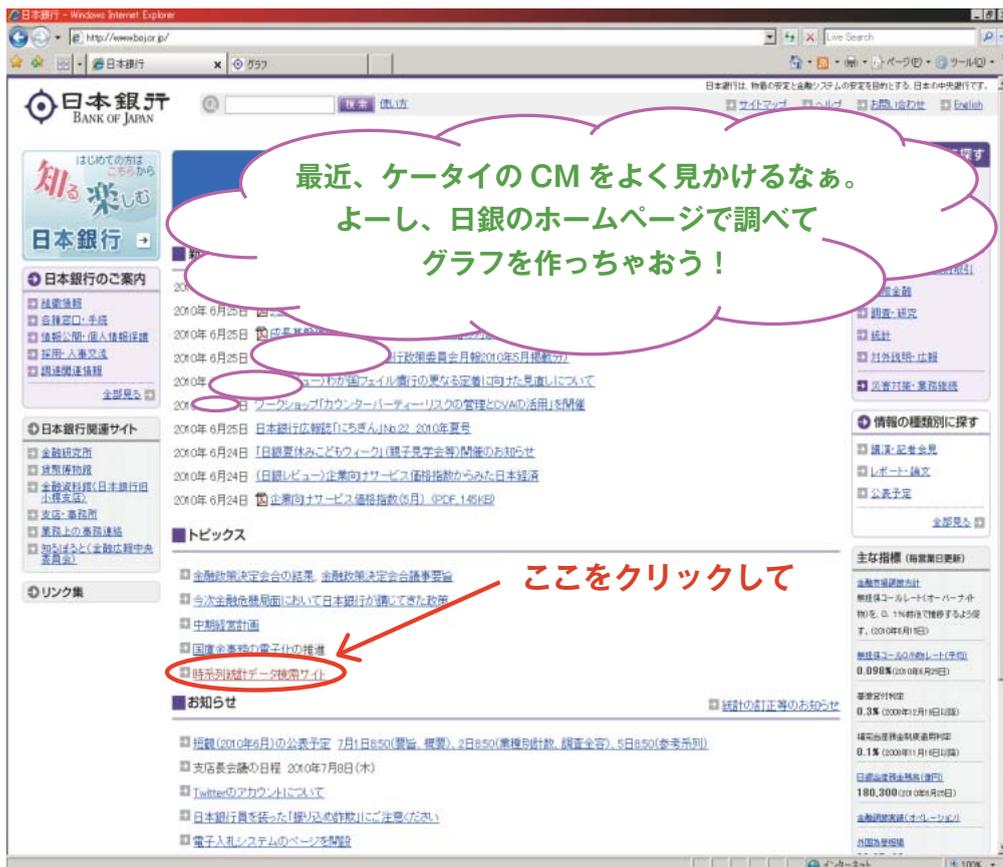
近に感じてもらうツールと位置付けて開発しました。

日本銀行がここまで統計にこだわる理由は何でしょうか。その答えは、政策判断には正しいデータが必要だということにあります。政策運営に当たっては、その判断材料を極力客観的に収集しなければなりません。客観的に検討するには、過去と現在を同じ基準で比較できるよう、一つの統計を長期にわたって作成し続けることが必要となります。逆に、都合の良いデータだけを寄せ集めるような姿勢を遠ざけなくてはなりません。

そして、政策運営の基となる統計を公表することにより、国民の側から政策運営の是非を点検することができ、これが現代の“evidence-based policy”と言われる透明性のある政策運営にほかなりません。突然難しい用語を持ち出しましたが、公平な政策判断を行うためには、正確な統計を作成し、誰からもチェックできるように用意することが欠かせないということです。こうした認

「時系列統計データ検索サイト」

http://www.stat-search.boj.or.jp/index.html



識はいまや世界共通のものであり、諸外国の中央銀行も統計の作成と広報に力を入れています。今回は金融経済に関わる統計を広く理解いただくことの意義

を取り上げました。もしお時間があれば紹介した「検索サイト」にまずはアクセスしていただき、統計データに触れてみてはいかがでしょうか。統計の概念や細かい



区分など、分かりにくい用語もあるでしょう。日本銀行としてはできる限り解説を用意しています。が、残念ながら限られたホームページの画面から探し出せないこ

ともあると思います。その際は、ぜひ日本銀行の統計照会窓口にご照会いただければ、幸いです。(今回は、物価統計の極意をお話しします。)

頼みもしないのに、折れ線グラフが現れた！

ここから、自分の欲しい統計を選んで



ケータイ代を値下げしているのに、通信会社は景気がいいんだあ。意外！